



↓善光寺の重要文化財の1つである山門。「善光寺」の額の「善」の一字が牛の顔に見えと言われて、「牛に引かれて善光寺参り」の信仰を如実に物語っている。

そうぶんに引かれて 信州・善

大会2日目、取材班で長野県立歴史館を訪れた。土偶、埴輪、人骨、古文書などが保管・展示されている。展示室だけでなく普段は入れないバックヤードも特別に見学させてもらった。バックヤードでは、長野オリエンティックの時に発掘された人骨や土偶、黒曜石を見せてもらった。とても綺麗でツルツルしていた。

また考古資料課長の西山克己さんより土器や人骨の話伺った。小学校では、縄文土器は模様なしと習うが、今回見せていただいた土器は、両方模様がついていた。土器からは、各時代の食品管理状態がわかるそう。実物を見ることで、教科書だけでは知り得ないこと、各時代の自然環境でどのように生きていくかなど昔の人の

古からのしなの土器に人骨
長野県立歴史館を訪れて
副部長かずきの日記

知恵を知ることが出来る。次に見せてもらったのが縄文時代の人骨。約3500年前のもので、安曇野の北村遺跡で約300体発見された。土の酸が強いと骨が溶けてしまうため残らないのだが、その周辺はアルカリが強かったため、ジェ

あるわけではない時代、怪我や病気で子どもが死亡する例が多々あったのだ。私は、その人骨を見て、命の大切さを教えられたような気がした。現地に足を運んで始めて味わえる感覚だ。

館長の笹本さんによると、展示室はもちろんだが、意外なおススメは館外の庭。中世の庭を再現していて、木の実を食べることが出来る。笹本さんもたまに食べているそう。

善光寺参りの後に、しなのの時の流れを感じて来てみてはどうだろうか。(貴)



↑いろは堂のおやき多種類で目移りする

おやきは長野県の名物。小麦粉とそば粉を練った生地、長野の野菜などを包み、蒸し上げる。一番人気は野沢菜だ。具を選ぶ楽しみと、数え切れないほど軒を連ねるおやきのお店。私たち一行は「高田屋」「つち茂」「いろは堂」のおやきを比べた。

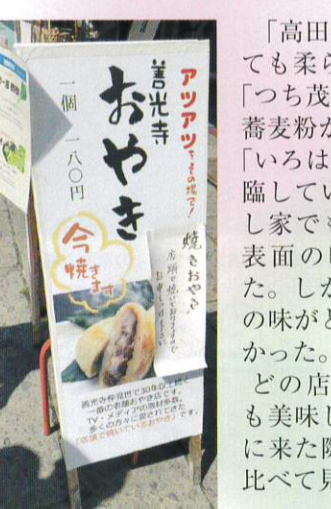
「高田屋」は、2度蒸しのため、表面がふわふわでとても柔らかい。中の野沢菜も味が濃くとっても美味しい。「つち茂」は、表面はカリカリ、中はジューシー。皮の蕎麦粉が香ばしく、皮と中身の二段階の味が楽しめる。「いろは堂」は、長野お土産ランキングで常に上位に君臨している。お土産としても人気の冷凍おやきを購入し家でも食べてみた。冷凍のため他の店と比べて、表面の味が薄いと感じた。しかし、中の野沢菜の味がとても濃く美味しかった。

どの店もそれぞれとても美味しかった。長野県に来た際には、ぜひ食べて見てほしい。(貴)



↑つち茂の焼きたてアツアツおやき

長野名物 野沢菜・味噌なす・かぼちゃ... どのおやき食べる!?



↑善光寺ではあちこちにおやきを売るお店がある

2018 信州 第42回全国高等学校総合文化祭
2018信州総文祭
2018.8.7~11



「極楽の錠前」に触れる

本堂の中で有名なパワースポットが「お戒壇めぐり」だ。内々陣の右側にあり、一寸先が見えない暗闇の中を壁づたいに約50メートル歩く。中程に懸かる「極楽の錠前」に触れることで、錠前の真上におられる秘仏の御本尊様と結縁を果たし、往生の際にお迎えに来ていただけるといふ約束をいただく道場だ。

暗闇の中では、個々のとらわれの心を離れ、錠前を探すことに専念しているため、仏様の世界に入ると言われる。記者が実際に体験してみても感じたのは、想像以上に真っ暗で、目をつむっているのと同じようだということ。また、「ジグザグした道だ」と思ってたが、ガイドブックで確認すると四角形に一周歩いただけで、「え、とても簡単なルートじゃ

ん！」と驚いた。「極楽の錠前」にも触れることが出来て、嬉しく感じた。

また、重要文化財の経蔵(きょうぞう)も必見だ。宝暦九年(1759年)に建立された宝形造りのお堂で、内部には八角の輪蔵があり、その中には仏教経典を網羅した「一切経」が収められている。輪蔵に付属している腕木を押して回すことでこの「一切経」を全て読んだことと同じ功德が得られるといわれる。



↑一切経が収められた輪蔵を回す

信州そうぶんを 終えて

☆交流新聞制作を通して、総文祭の目標が達成出来たので非常に満足できた。県外の人たちと協力して新聞を作るという減多に出来ない経験ができて本当に良かった。今回で学んだことをこれから活かせるように頑張っていきたいと思う。(星・貴)

行って絶対に損しないお寺！と実感した超オススメスポットだ。江戸時代から「一生に一度は善光寺詣り」と言われる名刹。あなたも一生に一度、さあ、いつ、何に引かれてお参りしますか？(星)